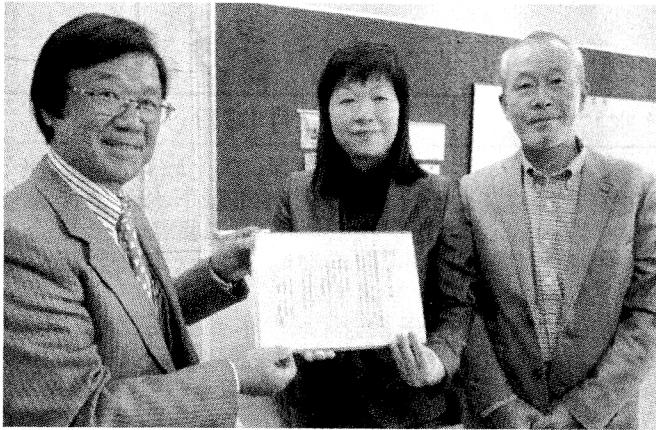


半生歌と映像に セレモニー 視覚障害者支援へつなげる

市の財団
南足柄市
春めき



平塚盲学校での寄付贈呈式。左から古屋さん、柴山校長、中島さん

南足柄市で生まれた「屋富雄理事長、同市塚早咲きの桜「春めき」(原)では、独自事業とを活用した視覚障害者としてセレモニービデオの支援などに取り組むの製作を行っている。目的にした一般財団法人「春めき財団」(古た全額を視覚障害者支援の寄付金にする取り組みで、先月下旬には県立平塚盲学校(柴山洋子校長。平塚市)へ50万円を寄付した。

セレモニービデオは理事長の古屋さん(67)が考案した、依頼人の半生を歌と映像で振り返る取り組み。高齢者の人に社会貢献をしていただければという発想から生まれた。

古屋さんが依頼者から半生を聞き取るなどして、オリジナルの歌を作詞作曲。同ビデオの映像は主にドローンを使い、依頼者の生まれ故郷やゆかりのある土地・建物などを直接訪ね撮影する。歌唱はギタリストの平野融さん、ドローン撮影は中島芳男さんがそれぞれ担当。

同ビデオの制作費は約100万円からと高額だが、経費を除いた金額はすべて寄付金とする。希望者はビデオや同財団の趣旨を理解した上で製作を依頼する流れ。

ビデオは自身の半生を振り返るアイテムとして活用でき、社会貢献活動にもつながると、関心を示すが見られるという。これまでモデルを含め5人ほどのビデオを製作した。

直近ではエレベーター保守点検で国内最大手のエス・イー・シーエレベーターの鈴木孝夫代表取締役会長から依頼された同ビデオを納品したという。

先月下旬の寄付では、鈴廣蒲鉾本店取締役会長の鈴木智恵子さんの寄付金をあてた。

古屋さんは同ビデオについて「その人の人生がずっと残っていき、ご家族などにも喜ばれるものになるので

古屋さんは元南足柄市「は」と話す。葬儀・告別式や個人的な催しなどでの活用も考えられる。

「盲学校は予算的に厳しく、必要な物品を購入できないという話も聞く。ビデオの製作を通じて多くの寄付をしていきたい」と抱負を語った。

春めきは古屋さんが品種登録者で、香りが強い早咲きの桜。同財団では、目の不自由な人でも桜を楽しんでもらえるようにと、移動可能な容器に植えた春めきの苗木の寄贈なども行っている。